

中国の新石器時代の遺跡から出土するクサガメなどのカメ類の遺骸

平山 廉

169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104 早稲田大学国際教養学部

Remains of turtles, including the Reeve's Pond Turtle, excavated from Neolithic sites in China

By Ren HIRAYAMA

School of International Liberal Studies, Waseda University. 1-104 Totsukamachi, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, JAPAN

クサガメ(*Chinemys reevesii*: イシガメ科)は、中国北京市郊外周口店の北京原人の遺跡(中期更新世)や台湾の前期(おそらく)更新統(更新世の地層)から化石が発見されており、本種が更新世(約258万年前から約1万年前までの期間)には成立していたことを示す。中国の新石器時代の遺跡からは、人が捕食したと考えられるカメ類の遺骸が多数見ついているが、骨学的に属種を識別できる研究者の不足もあって、系統学的な研究は乏しいのが実情であった。

著者は、2015年11月から2018年9月にかけて浙江省余姚市田螺山遺跡と河姆渡遺跡(約7000~6500年前)、上海市広富林遺跡(約4000年前)、杭州市跨湖橋遺跡(約8500~7500年前)、および安徽省蚌埠市固鎮県小孫崗遺跡(約7200~6800年前)と双壙遺跡(約7200~6800年前)の中国の新石器時代の遺跡から出土したカメ類の遺骸を調査する機会に恵まれた。これらの遺跡からは、少なくとも1946個体のカメ類遺骸を確認した。その内訳は以下の通りである。()はいずれも最小個体数を示す。

イシガメ科

- クサガメ *Chinemys reevesii* (1888)
- カントクサガメ *Chinemys nigricans* (6)
- ミナミイシガメ *Mauremys mutica* (13)
- ハナガメ *Ocadia sinensis* (7)
- セマルハコガメ *Cuora flavomarginata* (5)

リクガメ科

- インプレッサムツアシガメ *Manouria impressa* (2)

スッポン科

- スッポン *Pelodiscus* spp. (20)
- ハナスッポン *Rafetus swinhoei* (5)

以上のように、3科7属8種に同定される多様なカメ類が捕食されていたことが明らかになった。出土するカメ類の大半がクサガメであり、スッポン類など他のカメ類はきわめて稀であることが注目される。クサガメが多く見つかる理由として、カメ類の生息密度などの地域差を反映した可能性が考えられる。

カメ類の遺骸の多くに、解体や加熱などの調理痕が認められた。また調理とは無関係と思われる加熱痕もあり、これは宗教など文化的な行為であった可能性を考慮する必要がある。